



「学生大会移行」ならず —有志連合・全明クラ連共催— 29日、和泉中庭で全学集会

スト権の解除へ動いていた有志連合(佐々木裕代表)法三)は全明クラス連合(準)との共催で二十九日和泉校舎中庭で「全学集会」を開いたが、主催者の意向から、「学生大会切り替え」は参加者の反対でならず、「スト権解除」を学生会中執に要求する決議を採択するに止まった。

一方、全共闘系学生約二〇〇人はこの「全学集会」のけん制をめぐり、同日午前十一時ごろから、同じ和泉キャンパスで、ロック・アウト体制・授業再開運動粉砕のための「全明総発起集会」を開いていた。

有志連合・全明クラス連合(準)共催の「全学集会」は正午から始められた。開始早々、一層館二階の非常階段に設けられた議長団席に向け、全共闘系学生がデモ行進し、「最低限の防備はする」(佐々木代表談)として集められた体育会学生と小せり合いがくり返された。

まもなく、全共闘系学生は集会を開いたが、渡辺体育会委員長は集会をすくめめるよう数度警告を発した。全共闘系学生はこれに従わなかったため、体育会学生が実力で排除にのり出し、全共闘の集会は雲散霧消。その後、教員全共闘系学生と体育会学生は衝突を起し、全共闘系学生は一時門検問所の外まで押し出された。

この衝突で全共闘系とみられる学生一人が倒れる事態も生じ騒然となった。

集会はこの間、一時中断する一幕もあったが平穏のうちに進めら

れた。席上、発起人だった文三の民主化闘争委員会の一人は「学生大会を要求する様々な人がいる」とし民主的な学生大会の場として①大学当局に対して場所と時間を保障させる。②他大生生の参加は一切認めない。③凶器・武器の持ち込みを認めない。④などの要求項目を掲げ、具体的に取り組む構えをみせた。

また一般学生の間からは「代議員・選挙の改選を抜きに行なう六月十七日の臨時学生大会は無効だ」との声もあった。

この日有志連合の目指していた「全学集会」中執りコール、スト権解除への「夢」は実現せずかねてから主張していた路線を単に確認するのみにとどまった。また、体育会の渡辺健二委員長は、「体育会は有志連合をバックアップしているだけで、今後は独自の路線で目的達成に努力する」との見解を明らかにした。

最後に、全学の意志を反映した話し合いの場を今後設け、四決議を強く要求することを拍手で確認し二時過ぎ閉会した。